

安全データシート

改訂日:2022年2月10日

1. 化学品及び会社情報
 化学品の名称(製品名)
 会社名
 住所
 電話番号

ジ-n-ブチルすずジラウレート
 米山薬品工業株式会社
 大阪市中央区道修町2丁目3番11号
 (06)6231-3555(大阪・本社)
 (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
 (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
 CB1035

整理番号

2. 危険有害性の要約
 GHS分類
 健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分3
 急性毒性(吸入: 粉塵・ミスト): 区分2
 皮膚腐食性・刺激性: 区分2
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分2A
 生殖毒性: 区分1B
 特定標的臓器毒性: 区分1(肝臓)
 水生環境有害性 短期(急性): 区分1
 水生環境有害性 長期(慢性): 区分1

環境に関する有害性

GHSラベル要素
 絵表示又はシンボル



注意喚起語
 危険有害性情報

危険
 飲み込むと有毒
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 吸入すると生命に危険
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障害
 水生生物に非常に強い毒性
 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後は手などをよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 環境への放出を避けること。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
 【応急措置】
 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当を受けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。
 口をすすぐこと。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。
 汚染された衣類を全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 漏出物を回収すること。
 【保管】
 施錠して保管すること。
 【廃棄】
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成,成分情報

化学物質・混合物の区別
 化学名又は一般名
 化学式
 化学物質を特定できる一般的な番号
 濃度又は濃度範囲 (含有率)
 官報公示整理番号 (化審法/安衛法)

化学品
 ジ-n-ブチルすずジラウレート
 $(C_4H_9)_2Sn(OCOC_{11}H_{23})_2$
 CAS RN : 77-58-7
 99%以上 (Snとして17~20%)
 (2)-2330

4. 応急措置

吸入した場合

鼻をかみ、うがいをさせる。水でよく口の中を洗浄する。医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

製品に触れた部分の水で洗い流した後石鹸を用いて十分に洗浄する。痛み、違和感を感じる場合は、直ちに医師の手当を受ける。

眼に入った場合

速やかに清浄な水で最低15分間の洗浄を行う。直ちに医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師の手当を受ける。意識がある場合には、食塩水等を飲ませて吐かせる。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤、炭酸ガス、耐アルコール性泡末消火剤、散水
 棒状注水

使ってはならない消火剤

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のあるガスを発生する恐れがある。

火災時の措置に関する特有の危険有害性

特有の消火方法

消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

安全に対処できるなら着火源を取り除くこと。

消火を行う者の保護

適切な空気個空気、保護服 (耐熱性) を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具を着用し風上から作業して、風下の人を退避させる。

全ての着火源を取り除く。

保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用する。

密閉された場所に立ち入る前に換気する。

環境に対する注意事項

河川等へ排出され環境への影響を起さないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物を掃き集めてから容器に回収し、後で廃棄処理する。

二次災害の防止策

全ての発火源を速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 (局所排気、全体排気)

作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

安全取扱い注意事項

この物質を取り扱う作業場には、洗眼器と安全シャワーを設置すること。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な扱いをしない。

周辺でスパーク、火気の使用を禁止する。

静電気対策を行い、防爆型の機器を使用する。

固化した場合、空気との接触を避け、室温で数日間置くか、40~50度に加熱して完全に溶解してから使用する。

接触回避

酸、アルカリ、酸化剤との接触を避ける。

衛生対策

取り扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時は、飲食又は喫煙をしないこと。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、容器は乾燥した涼しい場所に貯蔵し、密封する。熱、火花、裸火、着火源から離して保管する。

安全な容器包装材料

ガラス

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (出典)

管理濃度

未設定

日本産業衛生学会

未設定

ACGIH

TLV-TWA 0.1mg/m³ (Snとして)

設備対策

取扱いについては、できるだけ密閉化を行うか、局所排気装置を使用する。作業場近くに手洗等の設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

防毒マスク (有機ガス用) を着用する。

手の保護具

ゴム手袋を着用する。

眼の保護具

ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

作業着を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	淡黄色
臭い	特異臭
融点・凝固点	25~27°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	250°C以上
可燃性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	149°C
自然発火温度	200°C以上
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率（粘度）	40mPa・s以下（30°C）
溶解度	水に不溶、一般の有機溶剤に可溶
n-オクタノール/水分配係数	log Kow = 3.12
蒸気圧	0.1hPa未満（20°C）
密度及び/又は相対密度	1.460~1.470（30°C比重）
相対ガス密度	該当情報なし。
蒸発速度	該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

反応性	水と徐々に反応し、ジブチルスズオキシド等に分解する。
化学的安定性	通常の取り扱いに於て安定。
危険有害反応可能性	酸、アルカリと反応するが穏やかである。
避けるべき条件	日光、熱
混触危険物質	酸、アルカリ、酸化剤
危険有害な分解生成物	該当情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性	経口： ラットのLD50値として3件のデータ [175 mg/kg（環境省リスク評価第8巻（2010））、45 mg/kg、243 mg/kg（以上2件 EHC 15（1980））] が報告され、内1件が区分2、2件が区分3に該当することから、該当数の多い区分3とした。なお、健康有害性に関しては、加水分解生成物の「ID427 ジブチルスズオキサイド（CAS 番号 818-08-6）」も参照のこと。
	経皮： ウサギのLD50値は >2000 mg/kg（環境省リスク評価第8巻（2010））に基づき、JIS分類基準区分外（国連分類基準の区分5または区分外に相当）とした。
	吸入 粉塵/ミスト： マウスの2時間ばく露によるLC50値は0.15 mg/L（4時間換算値：0.075 mg/L）（環境省リスク評価 第8巻（2010））に基づき、区分2とした。なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度（0.0008 mg/L）より高いので、ミストまたは粉塵による試験とみなした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギの皮膚に500 mgを24時間適用した試験で、中等度の刺激（moderate irritation）との結果（HSDB（2010））に基づき区分2とした。なお、List 3の情報として、ウサギの皮膚に500 mg適用したドレイズ試験で、刺激性は重度（severe）との記載（RTECS（2011）：元文献 National Technical Information Service：OTS0555424）がある。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ヒトで眼を刺激し、眼に入ると発赤を生じるとの記載（環境省リスク評価 第8巻（2010））に加え、ウサギの眼に100 mgを適用した試験で、中等度の刺激（moderate irritation）との結果（HSDB（2010））に基づき、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。
生殖細胞変異原性	in vivo試験のデータがないので分類できない。なお、in vitro試験としてはエーム試験で陰性（NTP DB（1983））が報告されている。
発がん性	該当情報なし。
生殖毒性	ラットの妊娠8日目に本物質51 mg/kgを経口投与した試験で、母動物の体重、生存、ならびに生存胎仔数への影響はみられなかったが、胎仔で下顎裂、下唇裂、舌小帯短縮や舌裂、脳ヘルニアなどの外表系奇形、下顎骨固定不全、頭蓋骨形成不全、癒合肋骨等の骨格系奇形の有意な増加が認められた（環境省リスク評価 第7巻（2009））および、親動物での一般毒性が現われていない用量で催奇形性が示されたことから、区分1Bとした。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	該当情報なし。
特定標的臓器毒性（反復暴露）	雄ラットの15日間反復経口投与試験（0、17.5 mg/kg/day）で、17.5 mg/kg/day群で20%の動物が死亡し、肝ミクロソーム酵素活性の低下やヘムオキシゲナーゼ活性の有意な上昇、および肝細胞の変性がみられた（環境省リスク評価 第7巻（2009）および第8巻（2010））。

誤えん有害性	<p>また、ウサギの6週間反復経口投与試験（0、15、25、40 mg/kg/day）では、25 mg/kg/day以上の群の全数、15 mg/kg/day群の1/3匹が死亡し、25 mg/kg/day群でLDHの上昇、25 mg/kg/day以上の群でGOT、トリグリセライド、総コレステロールの上昇、40 mg/kg/day群でGPTの上昇がみられた（環境省リスク評価 第7巻（2009）および第8巻（2010））。以上より、ラットではガイダンス値区分1に相当する17.5 mg/kg/day（90日換算：2.92 mg/kg/day）で肝細胞のミクロソーム酵素活性の変化および肝細胞の変性、ウサギではガイダンス値区分2に相当する25 mg/kg/day（90日換算：11.5 mg/kg/day）以上、または40 mg/kg/day（90日換算：18.5 mg/kg/day）群で、肝機能の悪化を示すGOT、GPT、LDHなどの上昇が認められたことから、区分1（肝臓）とした。 該当情報なし。</p>
12. 環境影響情報 生態毒性	<p>短期（急性）：甲殻類（オオミジンコ）による48時間LC50=0.66mg/L（ECETOC TR91, 2003）であることから、区分1とした。 長期（慢性）：信頼性のある慢性毒性データは得られていない。急速分解性がなく（難分解性、BOD：50%（既存点検, 1985））、急性毒性区分1であることから区分1とした。</p>
残留性・分解性 生体蓄積性 土壤中の移動性 オゾン層への有害性	<p>難分解性 低濃縮性 該当情報なし。 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。</p>
13. 廃棄上の注意 化学用品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意 国際規制 国連番号 品名(国連輸送名) 国連分類 容器等級 海洋汚染物質 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 国内規制がある場合の規制情報 陸上輸送 海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号	<p>3082 環境有害性物質（液体） クラス9（有害性物質） III 海洋汚染物質 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。 消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。 171</p>
15. 適用法令 化学物質管理促進法（PRTR法）	<p>第一種指定化学物質〔有機スズ化合物〕 （2023年（令和5年）3月31日まで） 第一種指定化学物質 〔有機スズ化合物（ビス（トリブチルスズ）=オキシドを除く。）〕 （2023年（令和5年）4月1日以降）</p>
毒物及び劇物取締法 労働安全衛生法 消防法	<p>毒物及び劇物に該当しない 法57条の2（令18条の2）〔名称等を通知すべき有害物（すず及びその化合物）〕 指定可燃物（可燃性液体類）</p>
16. その他の情報 参考文献	<p>GHS対応ガイドライン（化学工業日報社） GHS Q&A 実務者の為のガイドブック（化学工業日報社） 化学物質安全（ハザード）評価シート「ジブチルスズオキシド」（ジブチルスズ化合物としてのデータ） NITE-CHIRIP（製品評価技術基盤機構HP）</p>
その他	<p>記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。</p>